



しがのふるさと支え合いプロジェクト さとののかぜ通信

Vol.5号
2024.3月



17 パートナシップで
目標を達成しよう
2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



「山女原棚田ボランティア委員会」と「トヨタ紡織滋賀」・「あぐりきつず」の協働活動

令和5年7月16日、和クルミの里である甲賀市土山町山女原（あけびはら）地区にて棚田ボランティア活動が行われました。主に草刈機を使った棚田の除草作業で、参加者たちは猛暑の中、一生懸命に草を刈り、棚田の保全に取り組んでおられました。山女原地区は全戸数16戸と住民が非常に少ない地区です。さらには高齢化や担い手不足などの課題もあり、棚田の維持が難しいことから、山女原棚田ボランティア委員会が立ち上げられ、地域外の支援者の協力を得て保全活動を進めています。

山女原棚田ボランティア委員会の皆さんは、現在「しがのふるさと支え合いプロジェクト」を活用して、2社の企業と連携をすすめています。

連携する企業のひとつが、東近江市の農業生産法人「あぐりきつず」の皆さんです。約10年前、クルミの生産場所を探していたところ山女原にたどり着いたそうです。今では和クルミの里として地域活性化をすすめている山女原ですが、あぐりきつずの存在が大きな支えとなっています。「あぐりきつずの皆さんはプロの百姓であり、作業やクルミに関する知識を提供してくれて非常にありがたい存在です。」と山女原棚田ボランティア委員会代表の筒井勇雄さんは語って下さいました。



山女原地区が連携されているもうひとつの企業が、甲賀市内のトヨタ紡織滋賀株式会社（以下、トヨタ紡織滋賀）の皆さんです。お仕事で農機具を扱われることは基本的になく、初めて草刈機を触った方も多かったそうです。その後は、毎年作業されているだけあって、今では草刈機の扱いにも慣れた様子でした。また、令和4年度には農林水産省より「つなぐ棚田遺産感謝状」がトヨタ紡織滋賀の皆さんに贈られました。この感謝状は、トヨタ紡織滋賀と山女原地区の取り組みが、棚田地域の振興に寄与していることを評価して贈られたものです。このように、トヨタ紡織滋賀との取り組みは地域の農地保全につながるだけでなく、山女原地区のPRにもつながり、地域の活性化を後押ししています。

そして、この棚田保全活動を陰で支えている地域の女性たちがあります。それが「山女原クルミちゃん（以下、クルミちゃん）」で、活動の際はいつも食事の準備をして下さいます。棚田ボラ

ンティアの参加者は、クルミちゃんが作ってくれる山女原産クルミを使ったお昼ごはんや、いろいろ等のお菓子を非常に楽しみにしており、それが山女原地区の活動の大きな魅力となっています。このように、地域の女性が参画することで、山女原地区の活動はアットホームで、心温まるものになっています。

山女原地区の棚田保全活動は、地域の多様な人材と地域外の企業やボランティアの方々があぐりきつずを通じて棚田が保全されるだけでなく、トヨタ紡織滋賀やあぐりきつずの皆さんの支援が地域に活力を与えています。また、クルミちゃんという地域の女性団体の存在が、活動をより魅力的なものにし、リーダーの獲得につながっています。これからもこのような取り組みが続き、山女原地区の魅力が一層広がることを期待しています。

「比良里山クラブ」と「びわこ成蹊スポーツ大学」の協働活動



比良山系を背に、すぐそこにはびわ湖という自然の恵みあふれる大津市南比良地区。この南比良地区を拠点に里山保全や自然体験・環境学習の受け入れに取り組み一般社団法人比良里山クラブと、びわこ成蹊スポーツ大学（以下、大学）が「しがのふるさと支え合いプロジェクト」にかかわる協働活動を実施されると聞いて畑を訪れました。初夏の陽ざしの中、心地良い風が吹く日でした。この日は大学のサッカー部のメンバー6人が集まって作業。彼らは比良里山クラブの人気商品である「比良ペリラ」の原料となる赤シソ畑の草抜きを行っていました。「比良ペリラ」は、比良の自然の中でつくられた新鮮な赤シソを使用したジュースです。豊かな風味で栄養価も高く、県内外のファンにも多く親しまれています。サッカー部のメンバーたちはわいわいと楽しみなが作業を進めており、スポーツにおけるチームワークの良さを農作業でも垣間見ることができました。

農作業のお手伝いは大学の授業の合間に行われているようで、25人の学生がチームに分かれて毎週行っています。大学から比良里山クラブまでは車で約2分の距離で自転車や徒歩で畑まで来る学生もいるようです。このように協働活動の場が近くにあるからこそ、日々の作業を円滑に行うことができるのです。

この取り組みは、コロナ禍で帰省できなくなった学生たちが孤立することを心配した大学の教職員の皆さんが、比良里山クラブ代表理事の三浦美香さんに相談を持ちかけたことがきっかけとなっています。学生たちは一人、また一人と比良里山クラブの畑に通うようになり、令和5年からは「比良を第一のふるさとに！プロジェクト」と題して本格的に連携して取り組みことになりました。比良で穫れたお米を学生たちが食べることで食育につなげたり、人手が足りない畑の作業を学生たちに手伝ってもらったりと、お互い Win Win 関係性を育んでいます。それまで地域との関わりが薄かった学生たちにも、このプロジェクトを通じて地域に貢献したいという気持ち芽生えています。作業中のサッカー部のメンバーからは、「日常では経験できない学びがあり、楽しいです」「地域の方に、僕たちの練習や試合観戦に来て欲しいと思っています」との言葉がありました。



作業中、三浦さんから時折愛情を込めた指導が入ります。学生たちは、しっかりと話を聞き、作業に取り組んでいる様子。また、定期的な作業のお陰で地域への愛着も育っているようです。三浦さんは自分を「比良のおかん」と笑顔で称します。学生たちも心を開いており、地域全体で大学生を育てているように感じました。彼らにとつて、この場所はまさに「第一のふるさと」なのでしょう。

「しがのふるさと支え合いプロジェクト」は、滋賀県の農山村の活性化や新たな価値の創造を目的に、集落等と企業や大学等が協働活動を行うプロジェクトです。今このプロジェクトをきっかけに農山村と都市の間に新たな風が吹き始めています。通信ではこれらの新しい風をお届けします。

HPはこちら



Facebookはこちら





「東寺棚田を守る会」と「三雲養護学校」の協働活動

令和5年10月2日。この日は、三雲養護学校の児童・生徒が春に田植えをした田んぼの待ちに待った収穫日。さわやかな秋晴れのもと、期待に胸を弾ませながら、子どもたちが学校から約15分の道のりを歩いてきました。この日、田んぼにやってきた児童・生徒は総勢百数名。普段は静かな湖南市東寺地区の棚田に、子どもたちの元気な声が響きました。



三雲養護学校の児童・生徒は5月に手作業で田植えを行い、理科の授業等を通じて稲が成長していく様子を観察してきました。そして、この日、手刈りで丁寧に取り獲されたお米は、家庭科の授業でおにぎりなどにして、自然の恵みと東寺地区の皆さんに感謝しながら、美味しくいただくそうです。



子どもたちからは、「自分も農家になったみたいで嬉しかった」「思っていたよりも大きくなるのが早くてびっくりした」「食べるのがとても楽しみ」など、たくさんの声が聞かれ、活動が体験的な学びにつながっていることが感じられました。

「南深清水F.F.倶楽部」と「立命館大学食マネジメント学部」の協働活動

高島市の南深清水F.F.倶楽部と立命館大学食マネジメント学部（吉積巴貴教授研究室）は、令和5年度に「しがのふるさと支え合いプロジェクト」の協定を締結し、「健康」をテーマとする協働活動を行うておられます。

令和5年11月4日、立命館大学びわこ・くさつキャンパスで『BKCウェルカムデー』びわこ・くさつ健康フェスタ2023』が開催され、両団体が連携して商品化した『つながり茶』の試飲・販売を行いました。

『つながり茶』は、南深清水産ホーリーバジルと日本茶のブレンド茶で、学生がネーミングやパッケージのデザインを行いました。ホーリーバジルは、タイの人気料理「ガパオライス」等に使用されるハーブで、インド医学の「アユルヴェーダ」では非常に薬効の高い植物として知られています。国内での栽培は珍しく、南深清水F.F.倶楽部はその活用方法を模索してきました。

一方、吉積教授の研究室では日本茶に関するプロジェクトを進めていたため、『つながり茶』という健康に良い「日本茶ハーブティー」が誕生しました。たくさんの方々が賑わうフェスタ会場で、大学や地域の皆さんは『つながり茶』やホーリーバジルの魅力を伝えるとともに、農山村の課題や「ウェルビーイング（身体・精神・社会的な健康）」の大切さを広く発信されていました。

「6年前にホーリーバジルと出会った時は、まさかブレンド茶になるとは思っていませんでした。他にも入浴剤やリースなど、若者の発想は豊かで、話していて驚く

ことばかりです。どんどん学生から新しい意見をもらって、たくさんの方にホーリーバジルの魅力を伝えていきたいです。」と嬉しそうに話すのは、南深清水F.F.倶楽部代表の桂田隆司さん。学生の海野さんも、「地域の方は皆さんすぐくパワフルで、刺激がもらえます。現地でも地域の方からいろいろなお話を聞いたり、夜遅くまで一緒にお酒を飲んだりしたことは、フィールドワークならではの貴重な経験で、自分の学びにつながっていると思います。」とお話され、この取り組みをきっかけに、地域と学生に新たな絆が生まれている様子が感じられました。今後は、お茶の販売だけでなく、ホーリーバジルでリース飾りやドライフラワーを作る体験を提供するなど、活動が継続できるようにしたいとお話も聞かれました。地域と学生など、さまざまな「つながり」によって生まれたブレンド茶をきっかけに、これからも新たな「つながり」が生まれ、地域の更なる発展につながっていくことが期待されます。



【事業実施主体】 滋賀県農政水産部農村振興課
〒520-8577 滋賀県大津市京町4丁目1番1号
TEL : 077-528-3963

【運営事務局】 株式会社パソナ農援隊
〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1-10-1 梅田DTタワーB1
TEL : 06-7636-6124 (9:00~17:30)